

# 私立 中・高入試

志望校を決める

2020  
年度版

有名私立336校・国公立中高一貫87校 大学合格実績

✓ データで分かる!  
これから人気上がる学校

進学力、生徒満足度、グローバル対応…9つの指標で診断

✓ 首都圏オススメ中高一貫校ランキング

✓ 全国401私立中 最新偏差値・入試日程  
401私立高

✓ 国公立大医学部に強い学校はここが違う!

# 「家庭力」で決まる 中学入試は



受験をリスクに変えない親の心得

高濱正伸 ● 学習塾「花まる学習会」代表 × 杉浦孝宣 ● 不登校ひきこもり指導者

2019年の首都圏中学入試の受験者数は、前年より約2200人増の約4万7200人となった(国立、私立。首都圏模試センター推定値)。5年連続の増加となり、ますます受験熱が高まっている。しかし、夢のために多くの代償が求められることは時に両刃の剣となる。親子で「幸せな受験」にするためにはどうすればいいか、専門家2人に語り合ってもらった。

まずはこのショッキングな現実  
実に向けてもらいたい。

「うちに相談に来る子どももの9割が中学受験組なのです」

不登校やひきこもりからの立ち直りを指導しているNPO法人「高卒支援会」の代表、杉浦孝宣さんはそう話す。杉浦さんが今年7月に出した著書『不登校・ひきこもりの9割は治せる』(光文社新書)の中で、その事実を公表したところ、驚きの声が続々と寄せられたという。

実際、中学入試の受験者数が伸びるかたわら、不登校の児童・生徒数は増え続けている(次ページのグラフ①)。同じように不登校、ひきこもり問題に早くから注目してきた、学習塾「花まる学習会」代表の高濱正伸さんも「この二つは無関係ではない」と断言する。

中学受験が子どもの可能性を  
花開かせる機会になるのは、間違いないだろう。だが一方で、親と子の関係性が一から試される場であることも事実だ。ふとしたボタンの掛け違いが、不登校、ひいてはひきこもりの原因になるという指摘は、決して大げさではない。入試というハードルを子どもたちの豊かな成長の糧とするために、「親力」そして「家庭力」をどう培っていいばいいのか。

杉浦 うちに来る子たちが不登校になった原因は、いじめなどさまざまですが、特に多いのは成績不振なんです(グラフ②)。実力より上を狙って奇跡的に合格した子たちが、落ちこぼれて

**手放しでは喜べない!?  
「ギリギリ合格」その後**

杉浦 うちに来る子たちが不登校になった原因は、いじめなどさまざまですが、特に多いのは成績不振なんです(グラフ②)。実力より上を狙って奇跡的に合格した子たちが、落ちこぼれて



杉浦孝宣さん

すげうら・たかのぶ 1960年、東京都生まれ。カリフォルニア州立大ロングビーチ校卒。85年に中卒浪人生のための学習塾・学力会を設立。以来、30年以上にわたって、不登校、高校中退、ひきこもりの指導を行う。2010年にNPO法人「高卒支援会」を立ち上げ、「子どもたちが規則正しい生活をし、自信を持ち自律し社会に貢献する未来を実現する」というミッションのもと、指導を続けている。著書に「不登校・ひきこもりの9割は治せる 1万人を立ち直らせてきた3つのステップ」(光文社新書)など

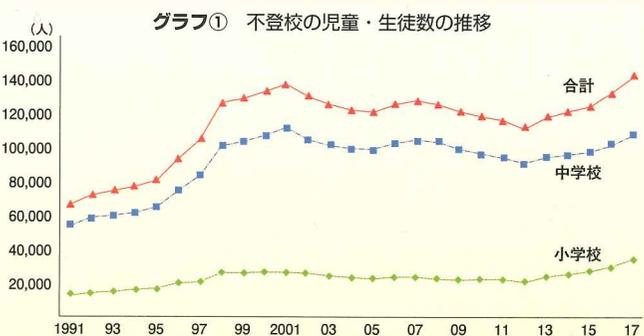
しまうんです。それで段々と学校に行かなくなってしまう。中学は義務教育なので進級できても、高校では出席日数が足りなかつたり、赤点が多かつたりすると進級できません。それで中退に追い込まれます。そこからひきこもりになってしまう子もいるのです。

高濱 私も長年の指導の中でそういう子をたくさん見てきました。だから、私がいとも口にしてるのが「引つかかったに幸せなし」。合格しても学校というピラミッドの中で下になつてしまつて、自己肯定感がなくなつたり中退したりすることも。それよりは、実力相応の学校に行つて、その中のリーダーでいるほうがよっぽどいい。杉浦 そう、学校の中で活躍で

きることが大事なんです。高濱 「幸せな受験」というのは、合格したかどうかじゃなくて、受験を通して子どもが成長して、入学後も伸び伸びと成長できる学校生活を送れるかどうかなんです。それなのに、目先の合格しか親は見えていない。だから不合格になると、子どもが2次被害に遭うこともあるのです。小学校入試に抽選で落ちた親子がいたので、それから延々8年間も、お母さんが抽選を外したことで悩んでいる。それを見ている子どもは「僕は不幸なんだ」と自信をなくしているのです。

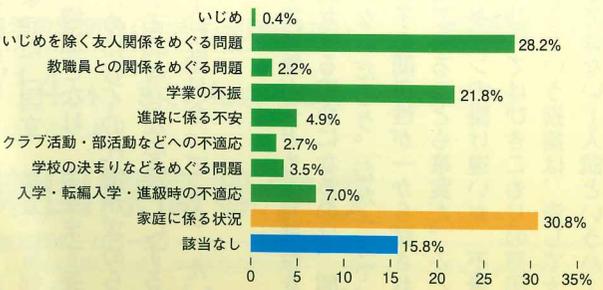
一番大事な教育目標は「メシが食える大人に」

高濱 そもそも、日本の受験・教育システムでは「不登校やひきこもりを量産してしまう」と危機感を覚えたのが30年くらい前です。ひきこもりが多くいることに気づいて、いろいろ調べたけれども、誰も何も手を打っていない。そこで、根本的に子どもの生命力をアップさせなくてはと考え、「メシが食える大



文部科学省「2017年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」(18年10月公表)から

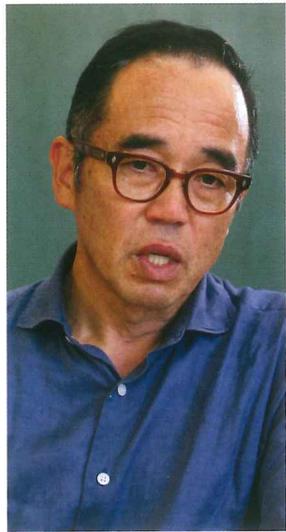
グラフ② 不登校になった原因(中学校、国公私立合計、複数回答可)



同上「2017年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」から

人に育てる」ことを理念に、作ったのが「花まる学習会」です。杉浦 私も30年くらい前に中卒で高校浪人した生徒の面倒を見たのがきっかけで、以来、不登校やひきこもり、高校中退した生徒を、高卒の資格が取れるように指導してきました。昼間から預かる塾はその頃、珍しかったのです。

高濱 ニート塾みたいな感じですね。杉浦 30年前はツッパリとか不良みたいな子が多かったです。でも、今では9割が進学校の子です。高濱 私もかつて、ひきこもり相談を受けていましたが、訪問すると、「あ、はい。わかりました」とおとなしい子なんです。でも私たちが帰ると、親に「何であんなのを呼んだんだーっ！」って暴れる。その人



高濱正伸さん

たかはま・まさのぶ 1959年、熊本県生まれ。東京大農学部卒、同大学院農学系研究科修士課程修了。93年、「この国は自立できない大人を量産している」という危機感から「メシが食える大人に育てる」という理念のもと、国語力、数理思考力、野外体験を軸とした学習塾「花まる学習会」を設立。現在、全国に364校舎、グループ会員数2万人を超える。「母親だからできること」など保護者向け講演会も大盛況で、テレビ・雑誌・ラジオなど出演多数、「わが子を「メシが食える大人」に育てる」(ファミリー新書)など著書多数

たちが今、40〜50歳です。杉浦 内閣府の調査でも、ひきこもりの長期化が明らかです(下のグラフ③)。長期化するといわゆる「8050問題」に発展してしまっています。(8050問題とは、ひきこもりが長期化し、中年となつた子の面倒を高齢の親が見ざるを得ない社会問題。80代の親が50代の子を支えるケースが象徴的であることからそう呼ばれる) **決して無関係ではない 「不登校」「ひきこもり」**

高濱 親の先が短くなると、不安になるんでしょうね。家の中だけだったのが、外でも爆発するようになる。杉浦 それが今年5月に川崎市で児童らが刃物で襲われて死傷した事件など、ひきこもり傾向

の中高年が関連した事件の背景にあると。高濱 ええ、氷山のように予備軍が水面下にどれだけいるか。ひきこもりと事件を直接結びつけるわけではないですが、要因の一つであることは事実です。杉浦 特に6月に起きた元農林水産事務次官による長男刺殺事件は象徴的でした。44歳の長男はかつて中学受験をして、有数の進学校に進学しています。中学時代から家庭内暴力などが始まり、近年はひきこもり状態だったと報道されました。親が対応を間違えると、ひきこもりが8050問題に発展し、最悪の場合には事件になることもあるんです。

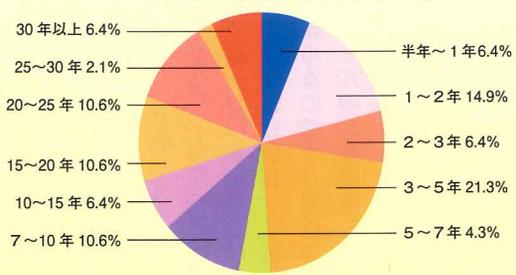
高濱 親のあり方が問題につながったと。杉浦 ええ。これを読んでいる人は「うちは不登校なんて関係ない」と思つかもしれません。しかし、文部科学省が不登校はどんな子でもなりうる」と指摘している通り、積極的に元氣な子や成績の良い子でも、受験のやり方、親のあり方によっては、不登校になってしまうんです。

受験に挑戦する意味をまずは父母が共有する

先日も、うちの生徒が包丁を持って自宅の部屋に立てこもりました。東大や早慶に多くの合格者を出している進学校に中学受験で入った子です。お父さんから連絡を受けて、スタッフが一軒駆けつけました。私たちは生徒と時間をかけて信頼関係を築いていきますから、すぐ包丁を置いてくれましたが、もしお父さんが警察を呼んでいたら、事件が発生したかもしれません。この両親は子どもに、良い中学、良い高校、良い大学に行くことが絶対だと求めてきたのです。

高濱 すべての大人が哲学しなくなつたことが原因でいい、かわいいで育ててきて、いよいよしつけや厳しさが必要になつた時に、何も考えていなかったと。子育ての哲学がないのです。メシが食えればいい、という本質が見えていないから、ブランドしか見えない。すると「あと偏差値を5上げれば、この学校に行ける」となる。偏

グラフ③ ひきこもりの中高年(40〜64歳)のひきこもり状態になってからの期間



内閣府「生活状況に関する調査(2018年度)」から

差値表にとらわれて、少しでも上に行かせたい。お母さんが「○○君は××校だけど、うちは△△校ですから」と自慢したりする。本当にくだらない。杉浦 おつしやる通り、問題がある家庭の親は、良い中学、良い高校に行かせるといふ考えに凝り固まっています。だから子どもも、中学に合格すれば、そこで燃え尽きちゃう。その先に目標がないから、勉強しなくなつてしまうんです。それで成績不振になつて不登校になる



ケースもよくあります。

そもそも両親の子育ての考えがちがうのです。相談を受けると、両親の考え方、ベクトルをすり合わせることからスタートします。特にお父さんが変わって、夫婦が一枚岩にならないと、子どもは立ち直りません。

**高濱** 受験もそうです。夫婦の意見や方針が一致しないとうまくいきません。何のための受験なのかを見極めていないと、模試などの成績に一喜一憂してしまい、実際に受験して不合格だったりとすると、子どもは「やっぱり自分はダメなんだ」と心に傷を負ってしまいます。

夫が子育ての哲学を共有しないといけないのです。

本来、受験そのものは、野球で甲子園を目指すのと同じで、子どもを鍛える場として意味あるものです。試練があるからこそ鍛えられる。受

験によって、その子に何の力がついたか、親が見極めていければいいのです。

**「話を聞かない」父親が母親を偏差値崇拜に…**

**高濱** 日本中、夫婦の不和が増えているのです。哲学を共有するどころか、会話ができていない夫婦が多くなっている。「この人に何を言っても無駄」と日本中のお母さんがイライラしているのです。子どもの自立のために思考力を磨こうと週に1回塾で教えても、残りの6日は家庭でお母さんがギャーギャー言っている。それでは子どもが育たない。

**杉浦** 言えます。不和です。本当に。うちに来る相談も、お母さんが一人で悩んでいるケースがほとんどです。お父さんとちゃんと話ができていない。

**高濱** お母さんは、子育てが終わったら離婚もありえるけれど、今は我慢するしかないと考えている。家庭に冷え冷えとした関係がある中で子どもが育っている。ものがすごい問題です。

そもそも異性とは、世界観も感性も全く違う生き物なのです。妻は夫に対して「家のことを何も考えていない」と不満で、夫は「ダラダラ何言いたいのか、要点だけ言って」と妻に言ってしまう。異性が違う生き物だと気づくのは、離婚して2回目の結婚をしてからというのが現実です。

**杉浦** それに気づいて、お父さんが本気を出して変わらないといけない。

**高濱** そう。家族って閉じている世界だから、力関係が出来上がると変わらないんです。すると、お母さんは外に評価を求めたい。子どもが受験で良い学校に行けば、良いお母さんになれると思うのです。

**杉浦** それがお父さんを不安定にしているのに、気づかないんですよ。

**成績がぐんぐん伸びる母親に笑顔がある家庭**

**高濱** 各界で活躍する著名人に話を聞く機会がよくあるのですが、子どもの頃の話や話を聞くと、二つ共通点がある。それは「勉

強しろと言われたことは一度もない」ということと、「お母さんがいつもにこにこしていた」ということです。お母さんが自分の人生を満喫して、笑顔でいられるのです。この話を聞いたお母さんが、それまでガミガミ子どもに言っていたのを改めて、のんびり母さんになった。そうしたら、子どもは安定して最難関校に合格しました。

**杉浦** 私のところでも、お母さんが生き生きしてくると、子どもも元気になってきます。

**高濱** そう、子どもが良く育つためには、お父さんがお母さんを笑顔にさせればいいのです。イクメンになれということではありません。お母さんの気持ちに寄り添って、共感してあげる。「それは大変だったね」と相づちを打てば、お母さんの心は安定して、子どもも安心して勉強に取り組めるのです。間違っても、お母さんの話を論破してはいけません。違う生き物という前提で、お互いに付き合うべきです。

そして、お互いを思いやっていることを、子どもに示すので

す。例えば、お父さんが仕事で遅くなる時でも、お母さんは一番にお父さんのお茶わんにご飯をよそって取っておく。それを見た子どもは、家族のために働く父への感謝の気持ちをお父さんへ伝えます。お父さんはお母さんのいないところで子どもに「お母さん、いつも頑張っているからね」と褒めてください。子どもが「お父さんがそう言ったらよ」とお母さんに伝えたら、これほどうれしいことはないでしょう。お母さんが笑顔になるのです。

**杉浦** なるほど。そんな家庭なら子育ても、受験もうまくいきますね。

**受験期こそ徹底したい「早寝早起き朝ごはん」**

**杉浦** 受験前になると、夜遅くまで勉強する子がいます。それが大きな間違いで、受験前こそ規則正しい生活が必要だと私は考えています。ここで生活リズムを崩すことに慣れてしまうと、入学してから不登校になる可能性が出てきます。不登校やひきこもりで相談に来る家庭の

子のほとんどが、生活リズムを崩し、昼夜逆転しているのです。次の日が休みだから、ちよつとくらい夜更かし、朝寝坊しても大丈夫、そんな甘い考えでいると、あつという間にエスカレーターして、不登校になってしまいます。

**高濱** とても納得です。私もそう言い続けて数十年、孤軍奮闘してきたので、心強いですが、生活習慣を固めておかないと、後々大変なことになるとずっと言ってきました。でもお母さんたちは「土曜くらい、いいじゃないですか」と。夏休みや土日は寝坊してもいいという文化が家庭にある。しかし、夏休みに寝坊を続けていると、2学期から不登校になってしまうことがよくあるのです。受験だからといって、夜遅くまで勉強させても、いいことは一つもない。

**杉浦** そうなんです。不登校でも生活習慣が崩れていなければ、自分から学校に戻っていくこともあります。けれど、昼夜逆転していると、立ち直るのが難しいんです。そして、立ち直るために最初にやるのが、規則

正しい生活に直すことです。順番が大事なんです。

**高濱** 百ます計算で有名な教育者の陰山英男さんも「早寝早起き朝ごはん」と言っています。現場を知る人はみんな分かっています。親になって10年くらいの方が思うより何倍も、早起きは重要です。

**杉浦** 受験の時こそ、親の手作りのご飯をきちんと食べて、規則正しい生活をするのです。ね。脳の働きも良くなって成績も上がるし、心も体も安定する。それが、受験の時に親ができる一番のサポートでしょう。

**高濱** 同感です。時々、子どもの成績には口うるさいのに、塾にはいつもコンビニ弁当を持たせるお母さんがいます。忙しい時は仕方ありませんが、なるべく手作りのお弁当や夕食を用意してあげたいものです。すると「自分が大切にされている」と子どもに伝わり、精神的に安定します。

**肝心な志望校選びでは「トップの哲学」を見よ**

**杉浦** 受験で大事なものは、志望

校選びです。できるだけ子どもが成績で上のほうにいて、活躍できそうな学校を選ぶとよいです。

**高濱** 志望校を選ぶ時は、学校を動かしている、裁量権を持つ人物の話をよく聞くのも大事です。学校はトップ次第で大きく変わってきます。親として、この人なら信じられると思うような教育哲学を持った人がリーダーの学校なら安心できます。これまでの教育の問題点を見据えて、探究など新しい教育を行う学校も出てきています。

**杉浦** もし、進学した学校で挫折したとしても、あるいは不登校やひきこもりになったとしても、やり直しはいくらでもできます。そのための一つとしてうちでは、生活改善合宿をやっています。知的障害者施設に行つて、自然豊かなところで、生活リズムを立ち直らせつつ、ボランティアをする。人の役に立つことの喜びが立ち直りにつながるんです。

**高濱** 役割の与え方が素晴らしい。やりたかった教育の一つですね。